

河川整備計画の 概要について (九頭竜川中流部ブロック)

福 井 県

1.九頭竜川水系の概要

九頭竜川水系の特性

- 九頭竜川水系は幹線流路延長116km、流域面積2,930km²を有する一級河川であり、149の法河川により構成

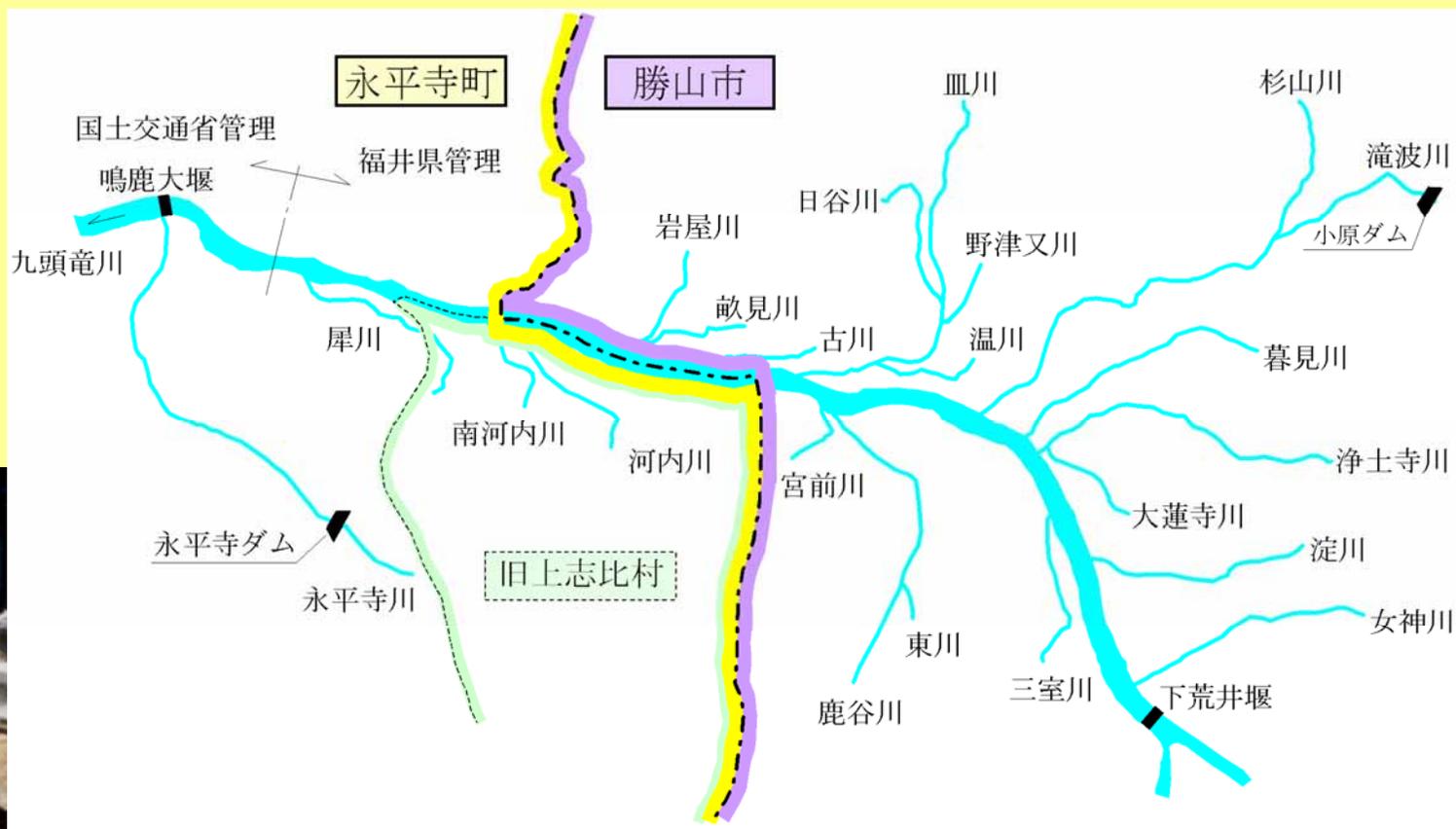


2.中流部ブロックの概要

流域及び河川の概要 構成市町、地形・地質、気候、植生、土地利用、人口、産業、歴史・文化・自然、交通、河川

治水事業の沿革

過去の主な洪水、河川改修の経緯



平成10年8月7日 出水状況



大蓮寺川

図 河川図

3.中流部ブロックの現状と課題

治水の現状と課題

- 流下能力
 - 九頭竜川ではS36.9洪水を対象とした場合、一部の区間で水位が計画高水位を超過する恐れあり
 - 支川では安全度が1/30確率未満と低い区間あり
- 河川管理施設
 - 定期的な河川巡視や点検等の維持管理を実施
- 流域治水
 - 開発に伴う洪水被害を防止するため、流出抑制策の指導を実施
- 危機管理
 - 河川水位や雨量などの河川情報を関係機関へ提供
 - 定期的な水防訓練を実施

3.中流部ブロックの現状と課題

利水の現状と課題

○水利権

- 許可水利権に基づいた適正な取水を実施
- 慣行水利権は取水量や期間等の実態把握が不十分
- 九頭竜川からの取水は上流域のダムにより安定した取水が可能



永平寺ダム

- 水道用水は、旧永平寺町については永平寺ダムの完成により取水が安定したが、勝山市については取水の安定化が望まれる **浄土寺川ダムの完成により解消**

○取水による 河川への影響

- 河川水の利用により5箇所の発電所によって電力を供給
- 市荒川発電所では九頭竜川の下荒井堰で取水されており、堰より下流では河道の流量が減少

3.中流部ブロックの現状と課題

河川環境の現状と課題

○水質

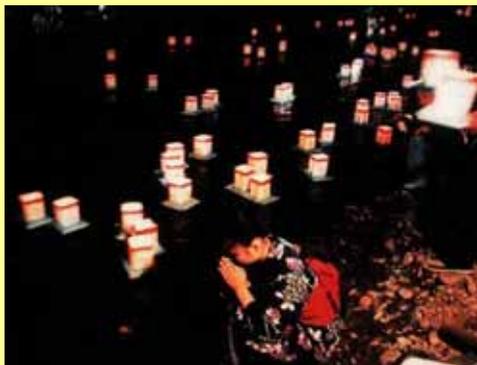
- 九頭竜川及び支川では良好な水質が維持

○河川環境

- 植物 ○九頭竜川ではカワラハハコ群落等が広く確認。砂州が固定化され樹木が繁茂
- 支川ではヨモギ、ツルヨシ等が確認

- 動物 ○アユ、ウグイ、カマキリ(アラレガコ)等の魚類やサギ等の鳥類が確認
- 本ブロックの九頭竜川に生息するアラレガコは天然記念物として地域指定

○河川空間の利用



永平寺大灯籠流し

- アマゴ、イワナ、ヤマメ等の渓流魚やアユなどを対象とした内水面漁業
- 高水敷は伝統行事やイベント等に利用
- 九頭竜川右岸堤防沿いの弁天緑地では全国水辺環境100選に選ばれるなど、良好な景観、憩いの場
- 河川敷地内におけるゴミの不法投棄

4.河川整備計画の目標に関する事項

河川整備計画の対象区間・期間 中流部ブロックに位置する県管理河川のすべての区間を対象とした概ね30年の整備

洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

- 治水安全度の向上
- 河川管理施設の適切な維持管理による機能確保
- 住民への各種情報提供及び関係機関との連絡体制等の整備
- 流域の保水・遊水機能維持のための土地利用等の誘導

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

- 適正な水利用管理、流水の正常な機能維持
- 取水による流量減少や濁水長期化等に対する改善

河川環境の整備と保全に関する目標

- 現在の良好な水質の維持
- 生物の良好な環境を保全し、人工改変による影響を極力低減
- 河川空間の適正利用、河川美化に対する啓発

5.河川整備の実施に関する事項

河川工事を実施する区間

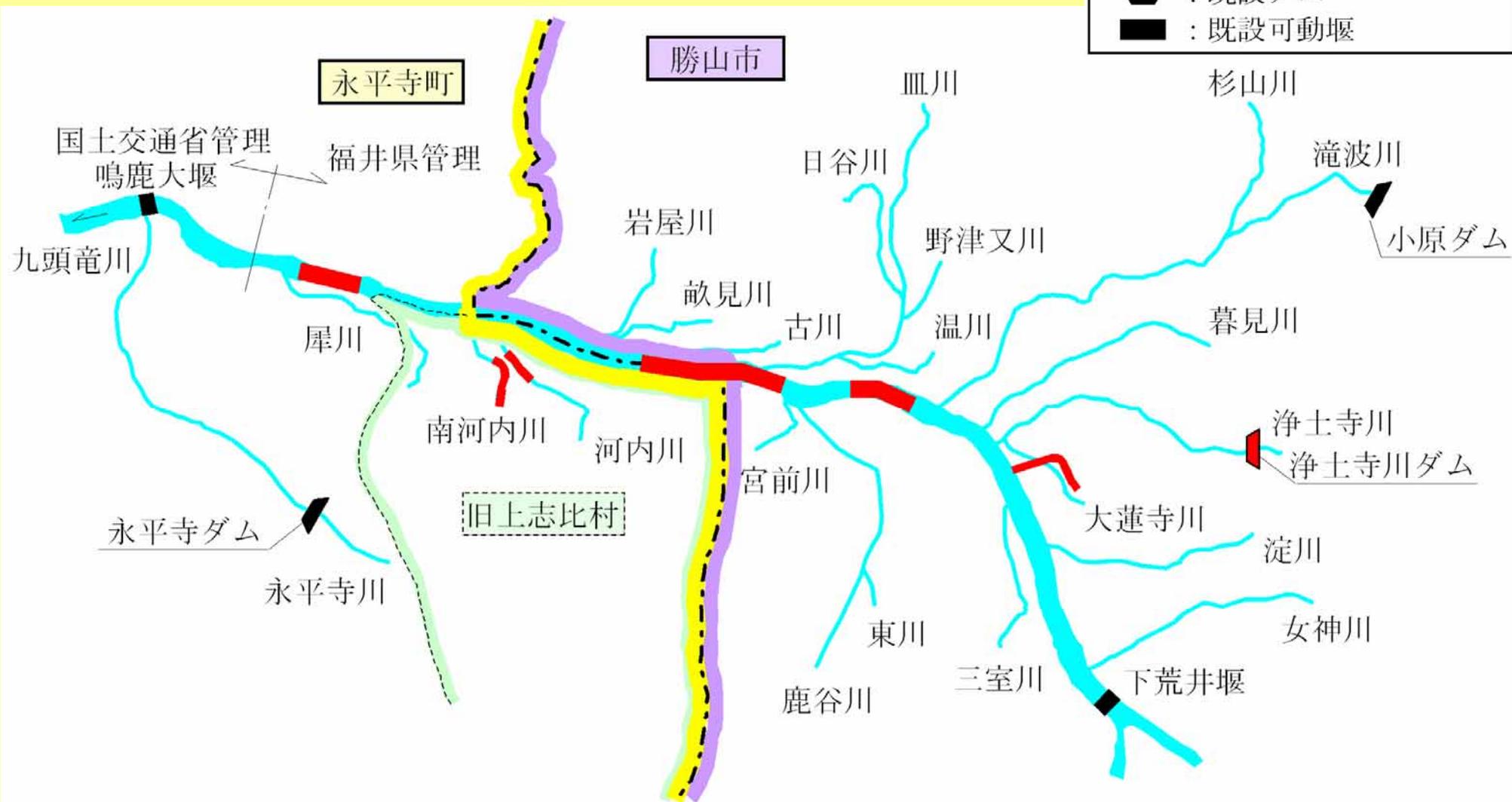


図 計画的に河川工事を実施する区間

5.河川整備の実施に関する事項

河川の維持の目的、種類及び施行の場所

○河川の維持の目的

○河川の維持の種類及び施行の場所

- 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する維持管理
- 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する維持管理
- 河川環境の整備と保全に関する維持管理

その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

○地域住民との協働

○他機関、他施策との連携等



淀川河川美化運動

整備状況

浄土寺川ダム

竣工：平成20年6月

形式：重力式コンクリートダム

総貯水容量 : 2,160,000m³

有効貯水容量 : 1,880,000m³

目的：洪水調節

流水の正常な機能の維持

水道用水の確保



浄土寺川ダム